

**CASBEE京都-新築(2011年版)**  
**数研出版新聞西本社ビル**

■使用評価マニュアル CASBEE 京都-新築 (2011年)  
 ■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
				評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>4.0</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									<b>4.1</b>	
<b>1 音環境</b>						<b>3.6</b>	0.15	-	-	<b>3.6</b>
<b>1.1 騒音</b>						<b>4.0</b>	0.40	-	-	
	1	室内騒音レベル	設備機器及び外部騒音の室内騒音レベル	<b>4.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	-	-	-	
	2	設備騒音対策								
<b>1.2 遮音</b>						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1	開口部遮音性能		<b>3.0</b>	0.60	<b>1.0</b>	-	-	-	
	2	界壁遮音性能		<b>3.0</b>	0.40	<b>1.0</b>	-	-	-	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		<b>1.0</b>	-	<b>1.0</b>	-	-	-	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		<b>1.0</b>	-	<b>1.0</b>	-	-	-	
<b>1.3 吸音</b>						<b>4.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.8</b>	0.35	-	-	<b>3.8</b>
<b>2.1 室温制御</b>						<b>3.5</b>	0.50	-	-	
	1	室温		<b>3.0</b>	0.38	<b>1.0</b>	-	-	-	
	2	負荷変動・追従制御性								
	3	外皮性能	Low-eガラス・日射制御スクリーン・各階軒庇等を設	<b>5.0</b>	0.25	<b>1.0</b>	-	-	-	
	4	ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	0.38					
	5	温度・湿度制御								
	6	個別制御								
	7	時間外空調に対する配慮								
	8	監視システム								
<b>2.2 湿度制御</b>						<b>3.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	-	
<b>2.3 空調方式</b>						<b>5.0</b>	0.30	<b>1.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>4.2</b>	0.25	-	-	<b>4.2</b>
<b>3.1 昼光利用</b>						<b>3.4</b>	0.30	-	-	
	1	昼光率	●自然 A(全国版準用)	<b>3.0</b>	0.60	<b>1.0</b>	-	-	-	
	2	方位別開口				<b>1.0</b>	-	-	-	
	3	昼光利用設備	●自然 B(推奨内容)	<b>4.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	-	-	
<b>3.2 グレア対策</b>						<b>4.0</b>	0.30	-	-	
	1	照明器具のグレア								
	2	昼光制御	●自然 B(推奨内容)	<b>4.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	-	-	-	
	3	映り込み対策								
<b>3.3 照度</b>						<b>5.0</b>	0.15	<b>1.0</b>	-	
<b>3.4 照明制御</b>						<b>5.0</b>	0.25	<b>1.0</b>	-	
<b>4 空気環境</b>						<b>4.7</b>	0.25	-	-	<b>4.7</b>
<b>4.1 発生源対策</b>						<b>5.0</b>	0.50	-	-	
	1	化学汚染物質	建材全てにF☆☆☆☆製品を採用。	<b>5.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	-	-	
	2	アスベスト対策								
	3	ダニ・カビ等								
	4	レジオネラ対策								
<b>4.2 換気</b>						<b>4.6</b>	0.30	-	-	
	1	換気量	30m <sup>3</sup> /h人以上の換気量を確保。	<b>4.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	-	-	
	2	自然換気性能	●自然 A(全国版準用)	<b>5.0</b>	0.33	<b>1.0</b>	-	-	-	
	3	取り入れ外気への配慮	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/10確保	<b>5.0</b>	0.33	<b>1.0</b>	-	-	-	
	4	給気計画	給排気取入口は、汚染源の無い方位で6mの離							
<b>4.3 運用管理</b>						<b>4.0</b>	0.20	-	-	
	1	CO <sub>2</sub> の監視		<b>3.0</b>	0.50					
	2	喫煙の制御	喫煙スペースの確保。	<b>5.0</b>	0.50					
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 機能性</b>						<b>4.1</b>	0.40	-	-	<b>4.1</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
	1	広さ・収納性		<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	-	-	
	2	高度情報通信設備対応	OAフロア対応、コンセント容量40VA/m <sup>2</sup> 、通信レベル	<b>4.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	-	-	
	3	バリアフリー計画	●大切 D(独自基準)	<b>3.0</b>	0.33					
<b>1.2 心理性・快適性</b>						<b>5.0</b>	0.30	-	-	
	1	広さ感・景観	●とも C(独自加点)	<b>5.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	-	-	
	2	リフレッシュスペース	CH=3.0mを確保。	<b>5.0</b>	0.33					
	3	内装計画	●とも D(独自基準)	<b>5.0</b>	0.33					
			喫煙スペース・リフレッシュバルコニー・自販機の内装コンセプト・機能が明確、モックアップ等の検証	<b>5.0</b>	0.33					
<b>1.3 維持管理</b>						<b>4.5</b>	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計		<b>5.0</b>	0.50					
	2	維持管理用機能の確保	防汚性の高い仕上材、メンテナンス性の高い内外装	<b>4.0</b>	0.50					
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.4</b>	0.31	-	-	<b>3.4</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>						<b>3.0</b>	0.48	-	-	
	1	耐震性		<b>3.0</b>	0.80					
	2	免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20					
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>						<b>3.4</b>	0.33	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数	●大切 A(全国版準用)	<b>3.0</b>	0.23					
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>3.0</b>	0.23					
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	20年以上の更新必要間隔の仕上材を使用。	<b>5.0</b>	0.09					
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.08					
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位は、A・Bを使用し、Eは不使用。	<b>5.0</b>	0.15					
	6	主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.23					

2.4 信頼性				重要度の高い室の空調は非常用発電機により節水型器具の採用、受水槽を設置。発電機設置。	4.4	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				5.0	0.20	-	-	
3	電気設備				5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.7	0.29	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				階高H=3.95m確保	4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり				5.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		4.0	0.40	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	2.0	-	
3.3 設備の更新性					3.6	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	構造部材を痛めることなく修繕・更新できる。	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	構造部材・仕上材を痛めることなく修繕・更新	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	仕上材を痛めることなく通信配線を修繕・更新で	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.32	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)	緑の質・量等を確保している。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	歴史的景観遺産地区に指定されている。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	中庭、バルコニー、テラスを設置し、中間領域を設けている。	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	4.3
1 建物の熱負荷抑制				PAL削減率15%を確保。	4.2	0.24	-	-	4.2
2 自然エネルギー利用					4.0	0.22	-	-	4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		●自然	A(全国版準用)	トップライト、ハイサイドライトによる自然換気計	4.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		●自然	A(全国版準用)	太陽光発電設備の設置。	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					5.0	0.32	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=37.8%	5.0		-	-	
集合住宅の評価					4.0		-	-	
4 効率的運用					4.0	0.22	-	-	4.0
4.1 モニタリング				空調・照明等の電気消費量を把握。	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				基本方針計画が決定している。	4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護					3.6	0.15	-	-	3.6
1.1 節水				節水型器具の採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.3	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				雑排水等を利用している。	4.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					4.2	0.63	-	-	4.2
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	高炉材または電炉材を2F、3F大梁等に使用	5.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	屋内用品(床材)、屋内用品(壁材)、ビニル床材など3品目以上にリサイクル資材を使用	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上材が容易に分別可能等の取組み	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				接着剤、シーリング材、床仕上材の有害物質を含ま	4.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					2.6	0.68	-	-	
1 消火剤					2.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.33	-	-	
3 冷媒					3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮					4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮					3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止				燃焼機器の不採用。	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.6	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減					-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制				建物内に駐車場・駐輪場の設置	5.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	0.50	-	-	
2 振動					3.0	0.50	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外へ漏れる光への対策				屋外・屋内照明の光漏れ等の対策を行って	5.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる